

# 509章 「夢と幻」

2016年6月12日、日曜日  
永遠なる創造主に聖なる者!

ジャン・ソトロン  
の著書による  
「夢と幻」  
印刷発行  
ロイ・レムキ  
安息日と、イエスの信仰を含めて  
神の戒めを守る  
ヒラデルヒヤ教会  
「残りの民」

イエスの信仰とは：  
預言の御霊である。

永遠なる創造主に聖なる者!

## 「夢と幻」 第一

(1) 私の青年の時代に、私は多くの夢と幻を受けました。私たちが身体と魂であったほどに、私はイエスとの親密な関係を持っていました。

(2) 私が記憶に残している一つの幻があります。そしてその幻と一緒に私は日々生きています。それは私を激励し、信仰の戦いに強さを私に与えます。そして私はこの幻をあなたがたと分かち合いたいと思います。

## 幻 ガラスの海の上に立つ 144,000 人

(3) 私は幻に入りました。私はここ、すなわちこの地球に対するすべての接触を失いました。私は火と混じったガラスの海を見ました。それはその上に神の息を通過していた波を作り出しながら、優しく動いていました。

(4) 彼らの手にシュロを握った一つの群衆がこの海の上にやって来ているのを私が遠くで見たとき、私は数分の間、ガラスの海のこの幻の前にいました。

(5) 少しずつ、その群衆は私の目の前で大きくなっていました。今、その幻の中で、それは私の前にあ

って近くに来ていました。

(6) この群衆は彼らのシュロの枝を揺り動かして来ました。そして彼らの声々は彼らの胸から出て来ていたのを私は見ました。彼らは一つの歌、すなわち一つの美しい歌を歌っていました。

(7) 彼らの衣服は白く、しみがなく純潔なイエスの外套のように白く眩く輝いていたのを、私は見ました。

(8) 私はこれらの人たちを見つめました。そして彼らの顔に何か、彼らが大いなる戦い、すなわち信仰の戦いを通過したことを私に見させました。そうして彼らは

勝利

を勝ち取りました!

(9) この群衆は

勝利

を歌っていました。

(10) 彼らの歌は大変美しく、私の髪が震えているのを感じました。私は、彼らを前にして恍惚となりました! 私は彼らにこのように言いたかったのです:

「私はジャンです。私はここにいます、あなたの前にいます。」しかし、この群衆は歌っていました。彼らのすべての強さをもって歌っていました。

(11) 彼らが尚も歌っていた間、その幻の中で、彼ら自身を私から遠く離していたこの群衆を私は見ました。

(12) どれだけ私は彼らと一緒に行きたくったことでしょう! 私は泣いていました。私はその群衆を見つめました。そして彼らは私の視界から消えていきました。

(13) 火と混じったガラスの海は、小さい波をつくって波上になり、神の御霊によって動いていました。そして、私はその幻を失いました。

(14) この幻は、非常に栄光あるものでした。私はそれを描写することができません。

## 「夢と幻」 第二

### 第二の幻

(1) それは、地球上での安息日の午後四時頃でした。私は幻に入りました。

(2) 一人の人が私に彼自身を紹介して、私に言いました。「恐れてはいけません。わたしはあなたの使命者です。イエスは、安息日に主にお会いするために、天に来ることをあなたに懇願しておられます。」

(3) この天使は私の手を取りました。そして私は、

私たちが天の天蓋の庇(ひさし)の下に居たことを見ました。

(4)「**恐れてはいけません。**」と彼は言いました。

「**わたしはあなたと共に居ます。**」

(5)それは美しく、美しい青色で数色の色合いを持っていたことを私は見ました。数千億という星は暗い夜に輝き、天にある天蓋を照らしていました。

(6)私は驚嘆しました! **榮光! 榮光! 榮光!** 何と美しいのでしょうか!

(7)私の使命者は私に言いました。「わたしたちは到着しつつあります。見てご覧なさい! わたしたちは**オリオン星座**の回廊に到着しつつあります。ここは、天の扉に到着するための道です。」

(8)大きな翼を持ったこの天使は鳥のように動いて、しかも私自身は彼のそばにいたのです。私はうろついていましたが、彼は私を見守っていました。

(9)「見なさい、**オリオン星座**の回廊です。」と彼は私に言いました。

(10)私たちが一つの大きな回廊に入って行ったことを、私は見ました。空には何数億という星がありました。

(11)彼は止まって、私に言いました。「空を見なさい。それは美しいのです!」

(12)私はそれを描写することができません。それは美し過ぎるのです!

(13)この回廊を通じて、私たちは入り口に到着しました。その天使は飛んだり、移動したりしていました。けれども私は幻の中にも、私は彼のように行動することはできませんでした。

(14)この回廊が多く星で満ちていて、大変美しかったことに、私は気づきました。何という美しさなのでしょう! 何という美しさなのでしょう!

(15)その多くの星がその回廊の上にあったのではなくて、その回廊の内側にあったことを、私は見ました。この入り口は大変大きくて広いのです。

(16)神の榮光はこの回廊の中で眩いばかりに輝いていて、ハーブの音色が鳴り響いていました。その回廊の各々の側に — 私はそれが記念碑のように見えたと言うでしょう — ニトン位の重さの大きな石(隕石)は、あたかも人の手が秩序良く **15** それらを

、**地のおもてに注がれる者、その名は主 Yahweh** 永遠なる創造主と言う。」アモス 5:8.

置いたかのように設置されて、両側に立っていました。

(17)その各々の側が石で飾られたこの回廊は、私の興味をそそりました。私は少し寒いと感じました。それらを描写するための言葉がありません。しかし、私はこれらの石に驚嘆しました。私は驚嘆してしまいました!

(18)私はそれらの一つに触れようとしていました。そして私が、私たちがここで「隕石」と呼ぶこれらの石の一つの上に手を置きたいと願ったとき、彼(その天使)は私に言いました。「いいえ、触れてはいけません! もしあなたがそれらの一つにでも触れるならば、あなたは即座に死ぬでしょう。」

(19)私に付き添っていたその天使は彼の大きな翼で飛んでいました。そしてこれらの石の間を通過して、彼らに触れていました。彼が死ななかったことで、私は驚いてしまいました。

(20)彼が私にこのように言ったのは、その時です。「あなたはまだ昇天していません。あなたは今ここに来ることもし、これらの石に触れることもできないのです。」

### 「夢と幻」 第三

(1)それは、見るには美しいものでした! 私は恍惚としてしまいました。翼をたたんだこの天使は、榮光で光り輝いているこの回廊の中で一羽の鳥のように動いていました。彼は、私を取り巻いていた彼の翼で空気を動かしていました。私は叫びました。

「ハレルヤ! **榮光! 榮光!**」

(2)彼は私の方に向かって来て、私の手を取りながら、私に言いました。「私たちは、今、イエスにお会いするために行こうとしています。」

(3)私は震えていました。私は、私たちが眩いばかりに輝いている一つの扉の前に到着したことを見ました。もし、それが神の恵みでなかったならば、私は、私の命を失っていたことでしょう。

(4)その天使は扉の前に立ちました。彼は扉を叩きました。すると扉は開きました。天に近づきを得るために一つの黄金のカードを提示しているその天使を私は見ました。

(5)私は天に入りました。何と美しいのでしょうか! 私は神の榮光の中にいました。彼らの黄金のハーブを手を持った天使たちと 24 人の長老たちはそこに臨席していました。神をたたえる賛美歌は聞かれました。それは非常に広大なものでした! 天使たちの合唱団がありました。すべてが美しく、完全でした。それは榮光と讚美でした!

(6)それからこの天使は私から去りました。そして

---

**15 「彼 [神] はただひとり天を張り、海の波を踏まれた。彼は北斗、オリオン、プレアデス及び南の密室を造られた。」ヨブ 9:8-9.**

「**プレアデス、及びオリオンを造り、暗黒を朝に変じ、昼を暗くして夜となし、海の水を呼んで**

私を歓迎するために来て下さっているイエスを私は見ました。主は私に言われました。「あなたを歓迎します! ご覧なさい、あなたは神の家にいるのです。あなたは、神と共に天に居るのです。ここでは、安息日です。」

(7) 私が地球上で幻に入ったとき、それは安息日でした。そして私は天に到着し、安息日の礼拝に到着したのです。

(8) イエスは私のそばにおられました。主は 24 人の長老たちを私に紹介されました。彼らは立ち上がって、イエスの前に身をかがめました。

(9) ハープ・・・何と美しいのでしょうか! 天は安息日を祝っていました。神は讃美され崇拝されておられました。

(10) 主が私をお受けになったとき、イエスは私に言われました。

**「わたしの恵みはあなたに十分です!」**

(11) それは壮大なものでした! 合唱団の全員はイエスを前にして崇拝していました。

(12) 私は頭を下げました。何という尊敬でしょう! 人類のためにご自身の命をお与えになったイエスが愛され、崇拝され、そして讃美されておられるのを見ながら、私は頭を下げました!

(13) 主は、ご自身の両手とご自身の額、そして突き刺された主の脇腹にある十字架の傷を私にお見せになりました。それらの傷は残ったままだったので、

(14) イエスは私に言われました。

**「わたしは神です。」**

天父、御子、そして聖霊、

同じ位格の中の三つの位格」

(15) **「あなたは神を見たのです。16**

がら、私たちは神を見るのである。そして、彼の榮光の明るさ、すなわち、主というお方の明白な御姿を彼の内に見るのである。 {時の兆候、文脈3、1896年7月30日}

あなたは、

**宇宙の永遠なる創造主  
を見たのです」**

(16) 幻のその時と言うものは、終わりにやって来ていました。イエスは私の使命者を来させられて、そして、私がやって来たこの同じ回廊を通して、私を帰らせるようにと彼に言われました。

(17) 主は私に言われました。「もしあなたが忠実であれば、あなたは、ここで父なる神と、御子なるイエスと、そして聖霊とのこの非常な幸福の中に、やって来るでしょう。」

(18) 主はこれを繰り返して、私に言われました。

**「もしあなたが忠実であれば、あなたは144,000 人と一緒に居るでしょう。」**

(19) 私はこれらの言葉を自分の内にとどめています。

**「144,000 人**

**と一緒に」**

(20) その天使は私の手を取りました。そして私はその幻を失いました。

ジャンニン・ソトロン

**16 キリストの神性とベツレヘムの飼い葉桶**の中の無力な幼児との間の対照は何という大きな相違があることであろうか。私たちはどのようにして**威力ある神**と無力な子供との距離を測ることができるであろうか。しかも、神の位格における満ち満ちたもの内にあられる、諸世界の**創造主**なる主は飼い葉桶の中の無力な赤子の内にあられたのである。天使の中のどの天使よりも高くあられて、威厳と榮光の中で**天父と等しくあられた**にもかかわらず、それでも人間の姿を取られたのである! **神性と人性は神秘的に結合された**のである。そして**人と神は一つになった**のである。私たちが、私たちの墮落した人類家族の望みを発見するのはこの結合の内においてである。キリストの上に人性を見な